

丹波篠山市公民館だより 第46号 四季の森通信

発行元
丹波篠山市立中央公民館
丹波篠山市網掛429
TEL 079-594-1180
館長 大路和浩
令和3年10月21日

公民館主催事業特集号

公民館が主催する主な4事業を1~2面にかけてご紹介します。担当者の熱い思いが詰まった事業です。また次号(3月発行)では、この4事業の令和4年度の募集案内を掲載します!ぜひ、ご確認ください!!

郷土味学講座

郷土味学講座では、丹波篠山市の食材を使って、シンプルだけど絶品!!な料理を作ります。郷土味学講座には、3つのコース「創造コース」、「伝承コース基礎」、「伝承コース応用」があります。そのコースの魅力・担当者の思いをのぞいてみましょう!



創造コース

丹波篠山市の食材を使い、その活用や新しい食文化を創造することを学ぶコースです。新しい発見をしたい方、アレンジしたい方、食のリーダーを目指す方におすすめです。

伝承コース(基礎・応用)

郷土料理を作れる人を増やし、次世代へ丹波篠山市の食文化を伝えるリーダーを目指します。郷土料理に興味がある方、新しく丹波篠山に移住された方などにおすすめです。基礎では、オーソドックスな内容を、応用では、少しアレンジを入れた料理を作ります。



担当者の思い 老いも若きもお料理の経験値は人それぞれです。何度も同じ物を作ったとしても、全てが同じであることはありません。失敗の中にも新しい発見や気づきがあります。学ぶ姿勢を忘れず、向上していける講座でありたいと思います。また講座では、丹波篠山市の食材の美味しさを体感していただけます!丹波篠山市は食材の宝庫!その豊かさは、きっと心も豊かにすることでしょう。

市民文化講座

地域の様々な分野を通して驚きと発見と共に学ぶ楽しさを知り、豊かな文化の継承と新たな文化を創造できる知識を学びます。



市民文化講座では、年6回の講座と1回の現地学習を実施しています。「市民文化講座」という言葉だけを聞くと、敷居が高く、堅苦しいものと思われるかもしれませんが、アドバイザーやサポーターの皆様のご尽力により、丹波篠山の歴史や文化についてより親しみやすくなっていますので、ぜひご参加ください!

※この講座はアドバイザー1名とサポーターの方が13名おられます。講座の受付や準備等をしてください。



担当者の思い

丹波篠山の歴史や、丹波篠山にゆかりのある歴史上の人物、古くから今日に伝わる伝統文化や祭り、また歴史的価値のある建造物など、先人たちがどのような思いで文化をはぐくみ形成していったのかを学んでいただけます。今後の私たちの未来に向けて、論語にもあるように「温故知新」、昔のことを研究し、そこから新しい考え方や知識を得る場にさせていただけたらうれしい限りです。



川柳

第38回 お題「公民館」 北澤稠民選

最優秀句

応募数 10名20句 評価ポイント*以下(評ボ)

四季の森笑顔集まる人の森

杉 内山俊朗

優秀句

初恋は公民館の舞台裏

桑原 太治野 みゆき

過去の事公民館は知っている

草ノ上 高橋祥男

講座待ち公民館で大笑い

東吹 河南京子

(評ボ)川柳講座でしょう。川柳は座の文芸と言われている。どうぞご満悦ください。

《総評》

公民館は地方文化の発展バロメーターです。当地は歴史を絶やすことなく発展させています。

次号のお題「ワクチン」12月24日×切
中央公民館・城東公民館・多紀支所・西紀支所・今田支所まで持参・郵送・FAXでご応募ください。1人2句まででお願いします。

一生勉強一生青春

Vol.35

仲谷 佳子 さん (三熊)

「大芋の黒豆肉粽(くろまめにくちまき)で宇宙をめざす!!」

8年前に大芋に移住され、地元の人の協力のもと、閉校した小学校でライブやフリーマーケットを催し、地域を元気にする仕掛けをされてきました。丹波篠山に来て黒豆に魅入られ、「この素晴らしい食材を使って、地域を活性化したい」という思いから考案された粽(ちまき)は、昨年度の「丹波すぐれもの大賞(わくわく部門)」を受賞されています。

夫が仕事で陶芸美術館に行ったとき、「篠山めっちゃいいでえ、きれいでえ」と言うので、家族で今田に行きすぐ家を見つけ大阪から移住しました。さらに本格的な田舎暮らしの家を探し、大芋に移ってきました。大阪にいた時は、難波で本格焼酎の居酒屋を10年ほどやっていた。粽はイベントの屋台などで売ってきました。台湾の南部まで行って、お店に飛び込んで、作り方を学び探ってきました。

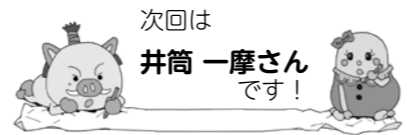
粽には色んな思いが詰まっています。近所の農家に作ってもらった黒豆ともち米を使った粽で、大芋に人を呼び込み、地域が活性化できればと思っています。また、この粽が宇宙食として採用されたいとの思いから、レトルトパックも作りました。コロナ禍で大変ですが、夢に向かって今も勉強中です。



【記者より】

仲谷さんの「ピンときたら即行動する」精神!

居酒屋経営の時は、焼酎蔵元に飛び込み仲良くなり、丹波篠山に来たときはすぐに家を探し移り住み、「宇宙食になったらいいな」と思ったらJAXAに連絡を取る、という行動力。大きな夢が実現できますように!



次回は 井筒 一摩さんです! 次のバトンはこの人に託します!

本紙「四季の森通信」の紙名は、発行元である中央公民館がある「四季の森生涯学習センター」に由来していると思われるがちなのですが、実はもう一つの由来が存在します。それは「四季折々の様々な話題を提供する」という事で、発行当初は「春号」「夏号」「秋号」「冬号」として平成22年(2010年)5月から年4回発行されてきました。本年度から4か月に1度の発行となり、なかなか季節に応じた話題の提供が難しくなってきました。

さて、丹波篠山の特産品である「黒大豆」は開花のピークを過ぎ、そろそろ小さな菜が付き始める時期なのですが、この「編集後記」が皆さんの目に触れる頃には毎年恒例の旬の黒枝豆を求める「黒枝豆カブリッチョ(狂想曲)」も最終章を迎えているのでしうね。(つ)

編集後記

丹波ささやまおもしろゼミナール

普段何気なく暮らしている街中の貴重な自然や歴史のある場所にスポットを当て、ここ丹波篠山に改めて興味をもっていただくことが講座の目的です。また単なる講座ではなく、できる限り現地をめぐる直接「見て・触って・感じて」いただけるように企画しています。

主な講座を3つご紹介!!

【名木巨木めぐり】

「篠山自然の会」代表 樋口清一氏を講師に迎え市内にある名木巨木を中心に現地をめぐる講座です。丹波篠山に残された歴史ある自然に興味をお持ちの方々に毎年人気の講座です。



↑名木巨木めぐりの様子



【民話の里めぐり】

丹波地域に残された民話を語り継がれ活動されている「語りベサークルふるさと」の皆様を講師に迎え、市内各地域に残された民話を現地で体感していただく講座です。あなたの暮らす地域にもある、昔から伝えられた民話を聞いてみませんか。

↑民話の里めぐりの様子

【山城めぐり】

ここ丹波篠山の山々にはかつて「山城」と呼ばれる城があったのをご存じですか。その城跡が残された山々を巡り、普段見ることのない歴史を学んでいただきます。



↑山城めぐりの様子



↑担当者の三輪

担当者の思い

この「丹波ささやまおもしろゼミナール」は座学だけでなく、他の講座とひと味違う内容で企画しています。おかげさまで毎年多くの皆様に受講申込をいただいています。ここ丹波篠山には本当に多くの自然や歴史が残されており、改めて市民の皆様にも知ってほしい・見てほしい場所がたくさんあります。職員一同、多くのご参加を心よりお待ちしております。

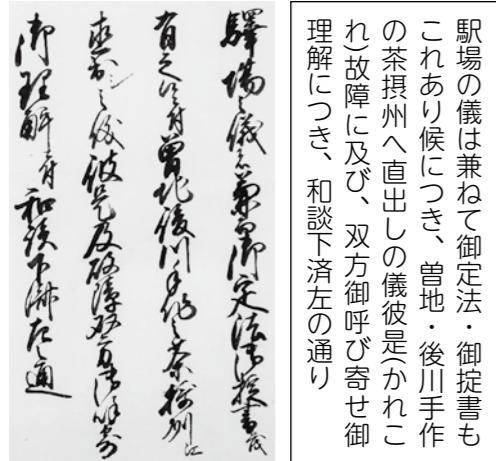
古文書講座

当講座は、丹波篠山市合併以前の平成7年から四半世紀以上にわたって、連続と続いている講座です。

篠山藩の武家文書、藩内の庄屋に伝わる文書、中世の和田寺文書などこの地域に伝わる多くの古文書を解説することで、丹波篠山の歴史を学びながら、古文書に親しんでいただけます。あまり難しく考えず気楽に勉強してください。



講座の様子→



↑学ぶ古文書(例)

↑読み下し文

初級編

昨年までは「古文書入門講座」でしたが、今年度より入門クラスを初級編としました。当コースはくずし字に親しむことから始めて、古文書特有の返読文字の読み方や、現在ではあまり使わない指示語、助詞などを学びます。

中級編

昨年までの「古文書入門講座」では受講回数の制限をしていましたが、これを撤廃して何回でも受講いただけるようにしました。中級編ではさらに、古文書の学びを深求できます。市が現在進めている市史編纂事業をお手伝いいただける人材がこの講座から出て欲しいと思っています。

担当者の思い

古文書と言うと、難しい事と思われるかもしれませんが、講座で取り上げるのは丹波篠山に残された丹波篠山の記録です。数百年近くの時間を飛び越えて、その時代に生きていた人々の暮らしをうかがい知ることができます。また、歴史事実と照らし合わせて受講すると、より一層歴史への興味が深まります。ここ丹波篠山にはたくさんの古文書史料が残っています。当講座の松本先生は、「泉下の姫路・明石・尼崎といった旧藩の古文書史料は戦災などで無くなっており、丹波篠山に残っている史料は貴重です。」と仰っています。



↑担当者の安原

Info =公民館からのお知らせ

お得意様の

このコーナーでは、公民館に縁のある団体を紹介します。掲載希望団体は公民館まで!!

令和元年度文化の祭典城東会場 の前夜祭に出演 吹奏楽団プリマベéra

代表者：奥川 学(090-5661-0845)
活動日時：月2回
(第2日曜日9:00~12:00)
(第4土曜日18:00~21:00)
活動場所：味間小学校ミーティングルーム
活動内容：介護施設や児童養護施設への訪問演奏
各イベントでの出張演奏
年1回のクリスマスコンサート(12月)
団体紹介：私たちプリマベéraは、「音楽で地域貢献」をモットーに月2回練習に励んでいます。団内は楽しく笑いが絶えず、仲の良い楽団です。只今、団員を募集しています。ブランクのある方大歓迎です。私達と一緒に楽しく音楽を奏でましょう!



↑活動の様子

まずは一步! ご興味があれば是非公民館へお問合せください。

令和3年度青少年行動力等開発プログラム事業 ~世間遺産を見つけよう~



「今まではあたりまえすぎて見過ごされていたコト、モノ、ヒトなど、自分たちの身近に存在する何気ない宝物に光を当て、その価値を再認識するとともに発信してみませんか?」

本年度の「青少年行動力開発プログラム事業」は、 「世間遺産を見つけよう!」

をテーマとして10月9日に動き始めました。近代化で捨ててきたモノを懐古するのではなく、置き忘れたモノにひそむ物語を知ること未来を探るのが、「世間遺産の方程式」なのです。詳しくは下の二次元バーコードから!!



◆事業の概要
丹波篠山市ホームページ



◆最新情報
公民館FBページ

募集中

第18回

篠山のむかしばなし実物写真館



『蜘蛛退治』

←土蜘蛛が住んでいたと言われる洞穴(市野々の八幡神社内)

昔々、市野々というところに、深い洞穴があって、大きい土蜘蛛が住んでいました。土蜘蛛は里を荒らしまわり、村人を困らせる上に、毎年一度は村の娘を差し出せと要求してくるのです。親たちは、娘を差し出すことになったら・・・と思うと死ぬ思いでした。

秋の終わり、今年も娘を出す時期がきてしまい、村人たちはどうするか何度も何度も相談を重ねた末、娘の代わりに庄屋さんの家の犬をかごに入れて差し出すことを思いつきました。

その夜がやってきました。村人がかごを下ろして慌てて帰った後、穴の中からよだれを垂らした土蜘蛛が現れ、かごの戸を開けました。その時、かごから犬が飛び出し土蜘蛛にかみつきました。・・・

続きは「丹波(篠山市・丹波市)のむかしばなし第3集」をご覧ください。

この辺りの土地は「大芋(おくも)」と呼ばれ、この話に出てくる大蜘蛛が、地名の起源の一つだと言われています。



「丹波(篠山市・丹波市)のむかしばなし第1~10集」1冊500円(財)兵庫県丹波の森協会発行)は公民館でも購入できます。

募集中

第18回

ささやまあるある 博覧会

『おーい!ケンケンするでえ~!』

~「ご詠歌」は
丹波篠山のソウルサウンド~

「カーン、カーン、カン、カン、カン♪」
年に一度、8月のお盆の3日間、町のあちこちから軽快な鉦鼓の音に合わせた西国三十三所のご詠歌が聞こえてきます。

少し季節外れな話題とはいえ、この記事を書いているのが夏真っ盛りなのでご容赦ください。

「今があるのはご先祖様のおかげ」

最近、ふとそんなことを思うことがあります。「そういう気持ちを自分自身の子供達にも伝えていきたい。」そんな思いの方も多いのではないのでしょうか。ですから、墓掃除や墓参りにもできるだけ子どもたちと行く様にしています。お盆の時期のご詠歌も例に漏れません。よほどのことがなければ、他人任せにせず先達を務めるようしています。

そう「おーい!ケンケンするでえ~!」の一言は、「ご詠歌」の合図なのです。同時に「今があるのはご先祖様のおかげ」の気持ちを未来へ繋ぐ「魂」の一言、そしてご詠歌はソウルサウンド(魂の叫び)なのかもしれませんね。